安平町施設巡り

Vol.12

早来浄化センター

12回目となる安平町施設巡りでは、早来栄町にある早来浄化センターについてご紹介します。

この施設は、国道234号線沿いにある大きな建物で、皆さんもよく目にしているのではないでしょうか？

今回はそんな施設が、私たち町民にとってどのような役割を果たしてくれているのかご紹介します。

小さな体で大きな働き

早来浄化センターは、平成16年10月から始動し、早来・遠浅地区で排水される汚水の浄化を行っています。

この施設に汚水を運び込むため早来・遠浅市街地の地中に約32㎞もの下水管が張り巡らされているとのこと。

そして、この下水管を通って運び込まれる汚水は、1日あたりおよそ660㌧。この数は、安平町スポーツセンターにある25mプール2杯分に匹敵する量です。

この膨大な汚水を浄化するのは薬品ではなく、体長が1㎜にも満たない小さな微生物。無数の微生物が反応槽と呼ばれる浄化スペースで、汚水を分解し、綺麗にしていくとのことです。

綺麗になった水は・・・？

1日に660㌧ほどの汚水を綺麗にするこの施設。

浄化が行われ、水質検査も経て基準値を満たした処理水は、最後に消毒され安平川へ放流されます。

その水は安平川を下り、太平洋へと注ぎ込まれます。そしてその水は、また雨や雪となり大地に降り、私たちの生活に欠かすことのできない水へと姿を変えていきます。

一人ひとりが大切に水を使い、正しい方法で排水することを心掛けましょう。

ご協力お願いします

調理後の油やエンジンオイル、塗料など水に溶けにくいものを汚水として排水してしまうと、微生物の死滅や機械の部品が目詰まりを起こし浄化を行う設備の故障を引き起こす恐れがあります。

微生物の死滅や機械の故障は、浄化能力の低下に繋がってしまいますので、正しい下水道の利用にご協力をお願いします。

施設の役割 正しい利用法を学ぶ

7月11日に、早来地区3校の小学4年生を対象とした合同見学旅行が行われ、早来浄化センターも見学場所のひとつに選ばれました。

施設では、汚水を浄化する過程や顕微鏡で映し出した微生物を見学。

施設を見て歩いた子どもたちからは「凄い施設であるのが分かった」、「水を大切にしたい」との感想を聞くことができました。